

患者様の尊厳を守るために 身体的拘束を最小化します

大阪暁明館病院では、患者様の尊厳を尊重し、安全・安心な療養環境を提供するため、病院全体で「身体的拘束の最小化」に取り組んでいます。

【当院の基本方針】

当院は、患者様の生命や身体を守るために緊急やむを得ない場合を除き、原則として身体的拘束を行いません。身体拘束は、患者様の心身に様々な弊害をもたらす可能性があるからです。私たちは、患者様一人ひとりの「その人らしさ」を大切に、尊厳を守る医療・看護・介護を提供します。

【病院全体での具体的な取り組み】

全職員が一丸となり、以下の取り組みを実施しています。

- 多職種チームによる検討
医師、看護師、リハビリテーション専門職などで構成される「身体的拘束最小化チーム（認知症ケアチーム）」が、定期的な病棟巡回とカンファレンスを通じて、拘束解除に向けた具体的な検討を行っています。
- 拘束しないケア（代替ケア）の最優先
「どうすれば拘束せずに安全を守れるか」を常に考え、離床センサーの活用、ベッドの高さ調整、環境整備、頻回な見守りなど、身体的拘束に代わるケア（代替ケア）を最優先で実施します。
- 全職員を対象とした教育・研修
年2回以上、全職員を対象に身体的拘束の最小化や患者様の尊厳保持、代替ケアに関する研修を実施し、意識と知識の向上を図っています。
- ご本人・ご家族との十分な話し合い
やむを得ず身体的拘束が必要となる場合は、理由や期間、代替策がないこと等を十分に説明し、同意をいただいた上で、必要最小限の範囲で実施いたします。実施中も早期解除に向けて日々評価を行います。

【身体的拘束の実施状況】

直近3か月間の身体的拘束実施割合：**9.5%**

大阪暁明館病院は、これからも患者様に寄り添い、身体的拘束ゼロを目指し続けます。患者様およびご家族の皆様におかれましては、当院の取り組みへのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年6月1日
大阪暁明館病院 院長 吉田 昭三